

令和6年度 高校3年 体育コース シラバス

□科 目	音楽Ⅱ			
□授業時数	2時間／週			
□教 材	高校生の音楽2（教育芸術社），Music Note（啓隆社）			
□学習到達目標	音楽の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と幅広く関わる資質・能力を養えるようにする。			
□成績評価基準	各単元ごとの実技テスト，ワークシートの提出，授業態度			
□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	4	○ガイダンス ○楽典・ソルフェージュ	・1年間の授業の内容について知る。 ・簡単なリズムやメロディーを聴き取り，正しく五線に書く。 ・旋律を聴き取り，読譜などの練習を通して，楽曲を豊かに表現するための技能を身につける。	
	5	○楽典・ソルフェージュ ○自由課題	・前月の続き ・主体的，積極的に取り組む。 ・自分なりのイメージをもって演奏する。 ・音色やリズム，メロディの重ね方などを工夫して演奏する。 ・曲にふさわしい表現を創意工夫する。 ・自分や社会にとっての音楽の意味や価値を考える。 ・互いの演奏を聴きあい，意見・感想を交換する。	実技テスト
	6	○箏	・2重奏 ・箏の演奏を通じて，日本の伝統楽器に実際に触れる。 ・箏の歴史や楽器の構造について知る	
	7			
	9	○歌唱「友～旅立ちのとき～」	・歌詞が表す情景を想像しながら歌う。 ・曲にふさわしい発声で歌う。 ・全体の響きを聴きながら，他者と合わせて歌う。 ・強弱記号の役割について考える。 ・歌詞に込められた思いや作者の意図を理解し，表現を工夫する。	

令和6年度 高校3年 体育コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	○歌唱「友～旅立ちのとき～」 ○鑑賞『レ・ミゼラブル』鑑賞	・前月の続き ・登場人物が歌う数々のミュージカルナンバーをそれぞれの立場や心情を理解しながら鑑賞する。	感想提出
	11	○鑑賞 「世界の民族音楽」	・世界の諸民族の音楽の特徴について理解する。 ・世界の諸民族の音楽の歴史的背景について理解する。	レポート提出
	12			
	1			
	2			
	3			

令和6年度 高校3年 体育コース シラバス

□科 目	美術Ⅱ			
□授業時数	2時間／週			
□教 材	高校生の美術2（日本文教出版），ポスターカラーセット，その他			
□学習到達 目標	美術の幅広い創造活動を通して，美的体験を豊かにし，生涯にわたり美術を愛好する心情を持つとともに，感性を高め，創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし，美術文化についての理解を深めることができるようにする。			
□成績評価 基準	年間を通した課題提出作品の平均，平常点（授業態度，忘れ物の有無，課題提出状況など）の総合評価とする。			
□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	4	・ガイダンス ・「静物デッサン①」	一年間の予定・必要な用具等について理解する。 モチーフはホーロー製ポット。 美術表現の基礎としての鉛筆によるデッサンをする。	A3画用紙 鉛筆 モチーフ 参考作品提示 作品提出
	5	・「レタリング」	「ありがとう」「おはようございます」「さようなら」などのひらがなと，自分の氏名の漢字を組み合わせレタリングする。構成，背景などの諸要素は自由。	A3ケント紙 鉛筆 ポスターカラー 定規 書体見本のプリント 参考作品提示 作品提出
	6	・「ロゴマーク」	自分のマーク，または自分の所属する部活動や委員会のマークを新たにデザインする。 象徴的な形をデフォルメあるいは強調することにより，斬新なマークを創造する。 たくさんのエスキース（練習・試案）が必要になる。 ポスターカラーで彩色する。	A3ケント紙 鉛筆 ポスターカラー 定規 参考作品提示 作品提出
	7	○評価	①デッサン ②レタリング ③ロゴマーク	
	9	・「木彫作品の製作」	平安時代の「手板」＝仏師の技術修行として考えられた彫り板を参考に，彫りの基本を習得しながらレリーフ表現の効果を踏まえ，木彫の装飾を施す。 彫刻刀を使用するため，安全を第一に作業する。	ウッドマルチスタンド 彫刻刀 彫刻台 紙やすり 水性ニス 刷毛 参考作品提示

令和6年度 高校3年 体育コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	・「木彫作品の製作」	仕上げに紙やすりや水性ニスを使って表情豊かな工芸品を作り上げる。	
	11	・「木彫作品の製作」 ○評価	継続学習 ①木彫作品	作品提出
	12			
	1			
	2			
	3			

令和6年度 高校3年 体育コース シラバス

□科 目	書道Ⅱ			
□授業時数	2時間／週			
□教 材	書道Ⅱ（光村図書）			
□学習到達 目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を持つとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深められるようにする。			
□成績評価 基準	年間を通した課題作品の平均、平常点（授業への取り組み、制作態度、忘れ物の状況、課題提出状況、作品展出品等）などによる総合評価とする。			
□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	4	実用書 （時候例文） 1 隷書作品	実用書の一貫として例文を掲げて、細字研究をする。 各自の多様な表現で展覧会作品を創作する。	プリント （月初め実施） ※実用書（時候文）は 始めにプリントで学ぶ
	5	2 行書作品	自然で温雅で、筆力が末端まで充実している点を理解する。	※実用書（時候文）は 始めにプリントで学ぶ p 38～39
	6	3 漢字・仮名交じり	三分角で各自の名前印を刻る。	※実用書（時候文）は 始めにプリントで学ぶ p 34～35
	7			
	9	4 文化祭出品作品 5 漢字・仮名交じり	漢字4～6字で各自の得意とする書体で作品を完成する。 短冊に自作の俳句を創作する。	※実用書（時候文）は 始めにプリントで学ぶ

令和6年度 高校3年 体育コース シラバス

□授業計画	月	単 元・項 目	内 容	備 考
	10	葉書・手紙 6 漢字「細字」	これまでの学習によって身につけた創造力や表現技術を日常生活の中に生かし、手紙文などを書く。 小筆の運・用筆を学ぶ。	※実用書（時候文）は始めにプリントで学ぶ
	11	7 創作（色紙）	3年間で習得した技術をもとに、色紙を創造する。	
	12			
	1			
	2			
	3			